

水辺の郷 伊庭：

家と水路をつなぐ「カワト」 水辺を集落の生活に取り込む



2019年10月（滋賀県東近江市伊庭）

◆水を生活の中に取り入れる

伊庭集落では、琵琶湖の水や湧き水を生活の中に巧みに取り入れてきました。集落のまん中に伊庭川が貫流して琵琶湖にそそぎます。集落内には何本も水路網ネットワークが形成されています。

◆水辺が集落の生業をささえる

明治時代には400を超える家々のほとんどが水路に接し、1軒に1艘の割合で田舟を所有していました。水路の石垣は「石垣屋敷持ち」と言われるように、そこに住む住民によって積まれたものです。

岡村幸二（JRRN会員）